



日口経済協力の重要性について —第4回朝妻ロシア経済セミナーに参加して—

ミソチコ・グリゴリー

第4回朝妻ロシア経済セミナーは、4月19日に東京外語大本郷サテライト3階で日口交流協会の主催で開催され、年齢・職業・人生経験が実に多種多様な30余名が集まりました。私は、昨年12月の第3回に続き2回目の参加となり、この度も大変有意義な2時間を過ごすことができました。今回のテーマは「ロシアのイノベーション政策と今後の日口経済協力」であり、多くの学生参加者の年齢をも超える30年近いソ連・ロシア在住歴を持つ朝妻幸雄副会長は、①3月19日に開かれた第6回日露投資フォーラム、②今後の日露経済協力の推進の鍵となろうロシアのイノベーション政策や、③これまでのセミナーで積み残しとなっていたロシア極東情勢など、幅広い内容について講義してくださいました。小テーマが終わるたびに質疑の時間が設けられ、様々な角度から出された的確な質問はセミナーの内容を一層膨らませました。

今回、特に多くの質問をひきつけたのは、20世紀の指導者に関する1999年のロシア国民の意識調査の結果でした。肯定評価がもっとも高かったのは、ブレジネフとスターリンであり、欧米諸国で人気が高いゴルバチョフとエリツィンは、ロシア本国では、大国ソ連を崩壊に追い込んで、経済を混乱させたとして、両氏の否定評価が肯定評価を大幅に上回っていました。(ある種の補足説明になるが) 実は世論調査機関「レヴァダ・センター」が2013年4月に行った調査でも、極めて類似する結果が出ており、国民意識はほとんど変わっていないのが現状です。こうしたなか、政治的にも経済的にも比較的安定した政権を実質的に15年近く維持しているプーチン大統領が国内で人気を集め、これに対して日本を含む世界各国のマスコミが冷戦構造から脱却できていないことは、さほど不思議ではないかもしれません。

しかし、朝妻先生が一貫して論じているように、日本が政



治的な側面に専念して中国や韓国に市場を取られたら、ダメージを受けるのはロシアでも中国でも韓国でもなく、既にかなり出遅れている日本に他なりません。安倍首相が就任後5回もプー

チン大統領と会談して、領土問題の解決や経済関係強化のために築き上げてきた土台を、ウクライナ危機のせいですべて台無しにするのは果たして日本の国益になるのでしょうか。ロシアによるクリミア編入の決定の翌日に開催された第6回日露投資フォーラムは、一時は成否が危ぶまれたが幸いなことに杞憂に終わり、朝妻先生のことばを借りれば「政治が厄介な場面にあっても粛々と経済関係を発展させるという姿勢を双方が確認する場」となりました。特に講義のなかでは、ロシアがメドベージェフ大統領時代から重点経済政策として位置づけている「イノベーション政策」分野における日口技術協力の具体例として、①日本の高品位の工作機械技術、②ごみ処理や有料パーキングシステムといった都市計画技術、③大豆ミールの飼料としての再利用を含む北海道の寒冷地技術などが挙げられています。

最後になりますが、私自身の研究テーマは移民教育政策です。「移民」というのは、近代国家の国境を越えて移住した人びとです。日本とロシアが隣国であるからこそ、領土問題がいち早く解決され、新しく引かれた国境線の両側に、日本語とロシア語のバイリンガルの人たちが暮らし、(アイヌ文化を含む) この島々の多様な歴史的・文化的資源の維持・発展が図られた「日露友好の地」が作られ、人工的に作られた国境そのものの存在が徐々に忘れられていく時代の到来を期待しています。今日の日露間のビジネス推進から出発して、いつしか日本全土とロシア極東全体が「日露友好の地」になるかもしれません。

(筑波大学・院生)